

自費訓練を終え、JALグループ合同採用を経て 国内訓練校初の日本航空株式会社内定を掴むまで



**板倉：エアラインパイロットを目指した時の動機は？
また決断した時の心境は？**

石井：私がエアラインパイロットを志したきっかけは体験操縦です。大学生の頃アメリカ留学中にフライトスクールでインターンシップを行っていた際に当時の上司が30分程度の体験操縦をさせてくださいました。特に飛行機に興味があったわけではなかった私ですが、人生で初めて自分で飛行機を操縦するという経験が刺激的でそこからパイロットを志すようになりました。

です。当時は特にエアラインに拘りはなくどちらかというと飛行機＝セスナという認識だったので“パイロットという職の一つの選択肢としてエアラインパイロットも魅力があるな”という程度の認識でした。そこから訓練生から飛行教官を経て飛行機に関わっているうちに徐々に気持ちが固まってきました。

決断した時の心境としては新たな挑戦に対する高揚感と現在の環境を捨てる事や先に対する不安が入り混じった心境でした。最終的に背中を押してくれたのはタイミングと業界の先輩や知り合いが誘ってくれた事でした。

**板倉：訓練中の思い出に残る事項はどんなところでしたか？
(楽しみ、辛さなど)**

石井：フライトにおいても地上においても学ぶ事が多い事がとても印象に残っています。新しい事、全く考えたことのなかった考え方を知れる事がとても楽しかったです。また、アメリカでの経験が長い私にとっては徹底された機体整備がとても印象的であり

がたく感じました。毎日きちんとプロの整備士さん達が点検や整備を行ってくださり、安心して訓練に望める環境はとても貴重なものだと思います。コンスタントに飛べたり、訓練に集中できるありがたみ、仲間がいることに比べれば辛いと思う経験はあまりありませんでした。

板倉：訓練終了し、内定が決まった現在の心境は？

石井：ほっとしたのが一番大きな気持ちです。元々就職活動に自信がなかったのと、努力すればどうにかなるというわけではないので採ってくださった会社さんがあった事に心から感謝しています。先についてはまた新たなステップへの挑戦でまだまだハードルがたくさんあるのでこれからは大変ワクワクしています。

板倉：後続く後輩訓練生に向けた助言、メッセージをお願いします。

石井：私は優秀なわけでもなく、やり方も人それぞれなので偉そうな事は言えませんが、訓練も皆さんが目指されているパイロット人生の一部なので楽しんで過ごしてもらえたらと思います。私は自分が選んだ道なのでもし楽しくない瞬間があるならおそらくやり方や生き方が間違っているんだらうなと自分では思うようにしていました。本田航空の訓練環境も大分という土地も大変良い場所なので、せっかくなので色々な方と関わって色々な面でエンジョイして多くを学んでいただければと思います。



自費訓練から内定を勝ち取った石井さんへ
HFTCセンター長板倉が想いを伺いました